

# 退職する日を迎えて

なんぐん館施設長 兼吉 章

昨年10月18日、私達は卒後50年の記念クラス会を京都の料亭“一力”でやりました。

同期の卒業生90人の内、46人が元気で参集していました。某女子大の教授、神戸の大病院の院長をまだやってる者、私のように老健の施設長をやっている者も3人はいました。皆赫灼たる者で、まだ同期の者の半数は何か働いているのだなと安心しました。しかし、その日から1月も過ぎぬ日に、その会を主催してくれたM先生の突然の訃報に接し自分たちの年齢を実感しました。

私、この“なんぐん館”の設立時より約11年無事に施設長を勤めさせてもらいました。この度、5月1日より、現南宇和郡医師会長であり、なんぐん館理事長の粉川顕仲先生に、あとを引き継いで頂き、退任させてもらえることになりました。大変安心で、幸せです。有り難く思っています。

産婦人科医だった私が、この10年余も施設長を無事にやってこられたのは、地区医師会員の先生方、施設理事の先生方、多くの“なんぐん館職員”の方々、なんぐん館を支持支援して下さった地域社会の方々等、多くの方々に助けてもらえたからと、心より感謝しています。

最後に私の身体と心と頭脳を守って、ここで働かせて下さった神様にお礼を申し上げます。

城辺から自転車で毎日通われ、施設内では、入所者の体感温度を感じるために、半袖白衣と素足で過ごされました。病氣も寄せつけない強い体と精神力で11年間、尽力下さいました。

この地を離れても、なんぐん館が先生にとって思い出の地でありますように。



兼吉先生、長い間、本当にお疲れさまでした。



3月15日(日) 愛南町少年少女合唱団の皆さんが来館され、戦争劇『ちいちゃんのかげおくり』他を披露して下さいました。昔を思い出し、涙する人もいました。



## 習字クラブ

